

国固有安全文化フォーラム（CSSCF）日本開催への参加

令和 5 年 7 月 5 日
原子力規制庁

1. 趣旨

経済協力開発機構／原子力機関（OECD/NEA）から原子力規制委員会に対し、本年 1 2 月に日本で開催される国固有安全文化フォーラム（Country Specific Safety Culture Forum、以下「CSSCF」と言う。）への参加要請がなされたことから、CSSCF の参加に係る対応方針の了承について諮るものである。

2. CSSCF の概要

CSSCF は、OECD/NEA と世界原子力発電事業者協会（WANO）との共催により、各国の国民性が原子力の安全文化、原子力施設の安全な運用にどのような影響を及ぼすかについて、参加者によるロールプレイ（役割演技）とそれに基づく議論により考察することを目的とするフォーラムである。これまでに、スウェーデン、フィンランド、カナダで開催されている（別紙 1 参照）。

フォーラム開催に先立ち、NEA 事務局は、事業者及び規制当局の様々な階層の関係者にインタビューを行い、それを基にロールプレイのシナリオを作成する。フォーラムでは、事業者及び規制当局からの参加者は、当該シナリオに基づいたロールプレイを行い、その後、その内容に基づいた小グループによる議論及び全体討論を行う。フォーラムにおける議論の結果は、インタビュー分析結果と併せて国民性の観点から分析がなされ、OECD/NEA の報告書としてまとめられ公開される。

日本で開催予定の CSSCF には、事業者及び規制当局の他、海外の規制当局、我が国の原子力発電所が立地している自治体からも関係者の参加が予定されている。また、オープニングセッション、クロージングセッション等は公開で行われ、ロールプレイ、小グループによる議論及び全体討論は非公開で行われる予定（別紙 2 参照）。

3. CSSCF の参加に係る対応方針（了承事項）

以下のとおり、原子力規制委員会及び原子力規制庁が CSSCF に参加する方針について了承頂きたい。

- ・山中委員長のオープニングセッションにおける挨拶
- ・伴委員の参加とクロージングセッションにおける挨拶
- ・原子力規制庁職員の参加
- ・NEA 事務局により開催される準備会合への原子力規制庁の参加

以上

<別紙>

別紙 1 国固有安全文化フォーラム（CSSCF）のこれまでの開催実績

別紙 2 国固有安全文化フォーラムの日本開催について

別紙 1

国固有安全文化フォーラム（CSSCF）のこれまでの開催実績

第1回

場 所：スウェーデン・ストックホルム

開催日：2018年1月23～24日

参加機関：OECD/NEA、WANO、発電事業者、燃料関連事業者、スウェーデン放射線安全機関（SSM）、フィンランド放射線・原子力安全局（STUK）、原子力規制委員会（NRA）

結果概要：フォーラムにおいて、スウェーデンの文化的な側面が説明され、ロールプレイ、議論が行われた。スウェーデンの「samskap（統一されていること、合意されていること、良好な関係を保つこと）」、「allskap（公正、公平）」、「自由」、「共通の理解と信頼」という文化的側面は他者への配慮を示し、安全文化の強化に寄与する。階層的にリーダーシップをとることやマイクロマネジメントをすることは適切でないといえられていること、マネージャーが全体を把握することが出来ず、指揮能力を失うリスクもあるとの議論があった。

第2回

場 所：フィンランド・ヘルシンキ

開催日：2019年3月6～7日

参加機関：OECD/NEA、WANO、発電事業者、燃料関連事業者、STUK、イギリス原子力規制機関（ONR）、NRA等

結果概要：フォーラムにおいては、フィンランドの文化的な側面が説明され、ロールプレイ、議論が行われた。フィンランドの文化的側面である「信頼」、「技術的厳格さ」、「解決型アプローチ」、「自主性」、「平等」等により、職員は組織内でオープンかつ自由に発言ができる。各個人の技術的能力が過大評価されていた場合、問題が生じる可能性があるとの議論があった。

第3回

場 所：カナダ・オタワ

開催日：2022年9月7日～8日

参加機関：OECD/NEA、WANO、発電事業者、燃料関連事業者、カナダ原子力安全委員会（CNSC）、フランス原子力安全機関（ANS）、スイス原子力規制機関（ENSI）、ONR、NRA等

結果概要：フォーラムにおいては、カナダの文化的な側面が説明され、ロールプレイ、議論が行われた。カナダの文化的側面である「礼儀正しさ」、「上下関係の尊重」は、ある領域では少し問題となり得るし、補うべきところでもある。争いを避けることはカナダの文化の1つだが、例えば社外の独立した人を雇って仲裁に当たらせるなど、その影響を軽減するための手段も検討できるかもしれないとの議論があった。

国固有安全文化フォーラムの日本開催について



原子力安全文化は、「原子力施設の従業員やその組織における職場・個人・地域の安全に対する信念・概念・価値観を集約したもの」と定義されるのが一般的です。組織における健全な原子力安全文化が原子力施設の効果的・持続可能な運用をもたらすとの考えから、OECD 原子力機関（NEA）と世界原子力発電事業者協会（WANO）は共同で「国固有安全文化フォーラム（CSSCF）」を開発し開催してまいりました。



2018年1月にスウェーデンで開催された国固有安全文化フォーラムの様子

CSSCFは、各国の国民性が原子力の安全文化、ひいては原子力施設の安全な運用にどのような影響を及ぼすかについて対話し、振り返りを行う場を提供することを目的としています。

NEAとWANOは、これまでにスウェーデン（2018年）、フィンランド（2019年）及びカナダ（2022年9月）において、合計3回のフォーラムを実施しました。これらフォーラムにおいては、各国の原子力関係機関の専門家やシニアリーダーを集め、原子力安全文化がその国固有の文化的背景によって如何なる影響を受け得るかについて理解を深め、意見を交換する場を提供してきました。各国でのCSSCFで得られた主要な知見は、当該国の原子力安全文化の強化に貢献して参りました。

日本でのCSSCFは2023年12月に開催する予定です。これは、原子力規制委員会（NRA）および電気事業連合会（FEPC）の協力を得てNEAが計画しWANO東京センターと共に開催するものです。

このプロジェクト全体は、一連の目的を持ったステップから構成されており、まずはNEA専門家による原子力関係者に対するインタビューから開始されます（2023年5月実施）。本データ収集においては、経営陣から現場作業員に至るまで組織内のあらゆる階層を対象に実施し、それを「スナップショット・スタディ」として取りまとめます。この調査結果をもとに、2023年12月に開催予定のフォーラム（2～3日

間）で活用するためのナリオを作成します。このシナリオは、原子力発電所の運営で実際に起こった事象に基づくものであり、フォーラムにおける参加者の間で議論を活性化するために活用されるのです。当日は、海外からの多数のオブザーバーも参加する予定です。

フォーラムにおける議論の結果得られる知見は、事前に実施したインタビュー分析結果とあわせて網羅的な最終報告書としてまとめられます。この報告書は、確認された国民性、そして国民性が原子力安全文化に及ぼす影響について記述し、日本の原子力安全文化を強化するための積極的な取組を明らかにします。本報告書は日本語版と英語版の両方で発行される予定です。

CSSCFは、原子力安全文化が日本の文化的背景から如何なる影響を受けるかについて検証するための効果的な手法となります。フォーラムによって、国内の原子力事業者、原子力産業界、規制当局、その他国内外のステークホルダーの参加者間で開かれた対話が促進されます。その目的は、注目に値する諸課題、既存のベストプラクティス、過去の教訓から学んだこと等についてハイライトを当てることを目的とするものです。



2022年9月にカナダで開催された国固有安全文化フォーラムの様子

本フォーラムにおいて、参加者が協力的で自由な意見交換を行うことを通じて、日本の原子力安全文化にプラスの効果をもたらすことを期待します。

お問合せ先:

メール: nea@oecd-nea.org

公式サイト（英語）: www.oecd-nea.org/csscf

OECD/NEA公表資料